



更科源蔵(さらしなげんぞう)
●1904(明治37)年、弟子屈町熊牛原野(南弟子屈)に生まれ、1985(昭和60)年に81歳で逝去。東京麻布獣医学校を中退した後、尾崎喜八、高村光太郎に師事し、詩作を中心に郷土史、アイヌ文化研究など主に文学活動を行った。
▶弟子屈町で所蔵しているさまざまな資料を紹介する。

著書の検印などに使っていた自作のエゾシカ印



文芸雑誌『潮光』

1冊の古びた雑誌があります。2007(平成19)年の第3回更科源蔵文学賞を受賞された「こたきこなみ」さんから「私のところへはコピーをしたものがあればよいので、弟子屈の更科先生に関係する文学資料の一部にしていただけなら」と、いただいたものです。

文芸雑誌「潮光」は、1952(昭和27)年9月に発行された北海道立小樽潮陵高等学校の文芸誌です。奥付に「五十周年記念文化祭入選作品特集号」とありますから、開校50周年記念の雑誌です。更科はこの雑誌の詩部門の選者を担当しています。

小樽潮陵高等学校の卒業生で文学評論家・藤女子大学教授を務めた小笠原克(故人)は更科源蔵との出会いを「昭和二十四、五年のこと、小樽中学から新制小樽高校(1950(昭和25)年、小樽潮陵高等学校に校名変更―筆者注)になる時代に、ぼくは文芸部に入っていて小樽市内の高校文芸部の連合体をつくって、その雑誌を出すときだったか、とにかく詩の選を更科さんをお願い

を体験しました。2日目は、たくさんのお花を観察しながら摩周岳登山にチャレンジ。3日目は、屈斜路湖でのウチダザリガニ釣り体験と和琴半島の植物調査。最終日は、全日程での学びをまとめました。

今回は4日間の活動とさまざまな体験を通じて、楽しみながら町の豊かな自然環境などについて理解を深めました。こうして身につけた知識と技術、経験を生かして、今後、観光で訪れるお客さまに町の魅力を伝えるガイド活動にも挑戦します。

新たな観光PRポスター ひがし北海道3つ星街道



(社)摩周湖観光協会(根津文博会長)は、フランスのミシュラン・グリーンガイド・ジャパン改訂版で摩周湖などが最高の三ツ星評価を獲得したことをきっかけに、NPO阿寒観光協会、同知床斜里町観光協会と共同で、新たな観光プロモーション用のポスターを制作しました。

ポスターは、釧路市在住の画家ピン・カシワさんがデザインしたもの

で、同じく三ツ星を獲得した阿寒、知床の3地域を3つ星街道として結び、東北道の雄大な自然景観を表現しています。

同観光協会では今後、せつかくの三ツ星の評価に対応できるように、なおもてなしを広げていきたいとしています。

ポスターに関するお問い合わせは、(社)摩周湖観光協会 ☎48222000まで。

冒頭の詩人「こたきこなみ(小瀧小浪)さんの詩を、更科は佳作二席に選び「哲学的な匂いが強く…(略)行を切るところなどにもう少し注意を要すると思ひます…(後略)」と選後の評価をしています。こたきさんの原詩を、更科が評価するとおりに行の区切りに注意して読み直してみると、がぜん、詩のリズムがよくなるのです。

このとき更科の薫陶を受けた高校2年生の少女が、その後も詩を作り続け、55年後に更科源蔵の名を冠した文学賞を受賞したのは、これも何かの因縁でしょうか。

えこまちジュニアで人材育成

てしかがえこまち推進協議会人財育成部会萩原寛暢部会長は、昨年からスタートした「てしかがえこまちジュニア事業」で「弟子屈4daysえこまちキャンプ」を開催しました。「この事業には、町内の小・中学生3人がチャレンジ。登山やザリガニ釣りなどを楽しみながら、自分たちの町の魅力をあらためて感じ取っていました。」

てしかがえこまちジュニアでは、地元弟子屈ならではの自然や歴史、文化を学び、そして、体験したことをたくさんの方に伝えることを通して、ふるさとに誇りを持ち、自慢し、町の未来を担う人材が育つことを目指して活動しています。



環境省の黒江保護官から説明を受けるえこまちジュニア

子どもたちは、地域の魅力を知れば知るほど、地域の魅力に気づき、地域に誇りを持ち、そこに暮らす家族や家業に誇りを持ち、地元に残りたいと思うようになります。さらに、地域の魅力を伝える活動により、昨今、不足がちといわれる人とのコミュニケーション能力が養われます。

これまで「てしかがジュニア自然ガイド」などでさまざまな活動を経た上で、摩周湖や硫黄山、和琴半島などを訪れるお客さまにその魅力を伝えるといった取り組みを進めています。

また、その活動が認められ、うち2人が、2009年3月に東京都内ホテルで行われた全国エコツーリズム大会で子



4日間で学んだことをまとめる

どもガイドからの提言を行うなど、内外からも注目を集めています。今回のテーマは「火山」です。初日、環境省川湯自然保護官の黒江隆太さんから雄大な自然を誇る阿寒国立公園についてお話を伺った後、昆虫採集をしながら硫黄山へ。硫黄山では活火山のエネルギーを活用し、ゆで玉子作り